

ハーヴァード大学の体育施設と課外スポーツ活動

平沢 信康

The Facilities for Athletics and Extracurricular Athletic Activities of Harvard University

Nobuyasu HIRASAWA

Abstract

Extracurricular activities and organizations at Harvard University are as enticing and diverse as the students who run them. Harvard students consider involvement in nonacademic pursuits a truly valuable part of their undergraduate experiences. For many, the combination of academic work and extracurricular activity paves the way to exciting careers or avocations. With more than 250 official organizations and countless informal opportunities for participation, students always have something interesting to do.

Harvard offers more opportunities for intercollegiate athletic competition than any other college in USA. The department boasts a total of forty-one varsity teams — twenty-one for men and twenty for women. Harvard attracts more than 1300 men and women to their varsity rosters each year. Harvard's teams compete at the Division 1 level of the National Collegiate Athletic Association (NCAA). There are also a number of junior varsity teams — ten for men and nine for women.

When I visited Harvard University as a visiting researcher (Associate in Research) of E.O.Reischauer Institute of Japanese Studies this summer, I could see the facilities of the campus. This paper aims to introduce the facilities for athletics and extracurricular athletic activities of Harvard.

KEY WORDS: *Harvard University, athletic facilities, extracurricular athletic activities*

はじめに

ハーヴァード大学は、周知のとおり、アメリカ合衆国における一門門大学たるのみならず、世界の高等教育の最高峰に位置づけられている。特に近年、わが国における大学改革の議論のなかで、この大学に言及した所論が散見されるが、それらは知的学問的エクセレンスに関するものであって、体育施設やスポーツ活動についての立論は聞かれない。

今年(2000年)夏、ライシャワー日本研究所の客員研究員として、ハーヴァード大学に滞在・調査する機会を得た。日米教育文化交流史研究に従事するための訪問であったが、併せて同大学の各部局を見学してまわり、スポーツ施設も見ることができた。本稿は、そうした実地見聞をも活かしつつ、滞在中に入手しえた若干の資料を基に、ハーヴァード大学の体育施設と課外活動を紹介するものである。これにより現代アメリカ高等教育の一端の理解に資することができれば幸いである。

1. 体育施設

ハーヴァード大学は、ケンブリッジ Cambridge 市内およびボストン Boston 市内に各部局が散在しているが、各キャンパス内に、それぞれ体育施設があるわけではない。ビジネススクールの屋外テニスコートやフィットネス施設、ディヴィニティスクール近くの屋外バレーコート、デザインスクールの裏手にあるバスケットボール用の屋外簡易コート等は例外的である。これらを除けば、ハーヴァード大学の体育施設は、メインキャンパスから南西にやや離れた、チャールズ川 Charles River を越えた区画に集中している。

この敷地はソルジャーズ・フィールド Soldiers Field と称され、ビジネス・スクールのキャンパスからは西側に当たる。92エーカーに及ぶ広さを有する区域内には、6面のフットボール場、5面のソフトボール場、2つの野球場、2面のサッカー/ラクロス場、5面のタッチフットボール場、ラグビー場、ホッケー/ラクロス場がある。

以下、この区域(本稿末尾に地図を添付)にある主要な施設を紹介し、あわせて歴史的沿革を解説する。

ハーヴァード・スタジアム

ソルジャーズ・フィールドの東側に、ハーヴァード・スタジアム Harvard Stadium がある。米国の大学で最初に出来たフットボール競技場で、3万7千人を収容する特筆すべき大型施設である。このスタジアムは、アメリカ合衆国における最初の鉄筋コンクリート製の競技場で、1903年に建設された。建築資金は1879年の卒業生と運動競技委員会によって提供された。建築家ジョージ・ブルーノ George Bruno de Gernsdorff が設計を担当し、ギリシャのアテネにある同様の建築物をモデルとして造られた。当初の収容人数は2万2千人であったが、木製の屋外観覧席を設けることによって1万5千人分が増やされた。後にスチール製の観覧席がオープンエンドで用いられ57,750人が坐れたが、1982年に改修され、現在の座席数は36,739人分である。



この競技場は主にフットボールに使用されており、フィールドの形状はフォワードパスの発展を刺激した。このスタジアムの高いコンクリート製観客席は、下半身の鍛錬のため下から上まで数え切れないほど幾度も駆け上がる各チームのメンバーに恐るべき試練を与えている。真冬には、ポートチームが駆け上がることができるように、座席の上に積もった雪を毎年シャベルで取り除いてきた。ポート選手たちには、この仕事は「汝ら自身

の墓を掘る」ものとして語り草となっている。



1984年夏には、世界最高水準のサッカー選手たちの幾人かが、オリンピックの予選を、このスタジアムで戦った。驚くべきことに、ここは競技のドラマだけでなく劇場用のステージともなっている。1983年春には、エウリピデスの Bacchae が上演された。

ゴードン・トラック・アンド・テニスセンター

ソルジャーズ・フィールドの南西には、ゴードン・トラック・アンド・テニスセンター Gordon Track and Tennis Center がある。屋内テニス施設であるパーマー・ディクソンコートに向かい側に位置する屋内トラックとテニスコートである。基本的にはトラック・チームのトレーニングのために使われている。1977年に、400万ドルの費用で建設された。建築家協同株式会社 The Architects Collaborative, Inc. が建築を担当し、請け負った企業はボストンのターナー建設会社 Turner Construction Company である。この施設は、応用力学のゴードン・マッケイ Gordon McKay 教授であり生物学の教授であったトーマス・マクマホン Thomas A. McMahon と、応用物理学の大学院生ピーター・グリーン Peter Greene によって設計された。広範な研究により、弾力性のある表面にした方が、(主にゴール地点での) けがを減少させ、スピードを増大させることが判明した。彼らの論文「速いランニングトラック Fast Running Track」は、Scientific American の1978年12月号の表紙を飾った。

このトラックは、それぞれ3フィート幅の6レーンからなり、半径62フィートの円周を有し、全部で220ヤードある。模造砂利のように見えるネオファン・スタッツをまいたポリウレタン製の表面構造、主として木製の下部構造、土手のように高くされたコーナーを特徴としている。ハーヴァードのトラックコーチであるビル・マッカーディ Bill McCurdy が29シーズン目に、カーブした土手の高さについて質問された際、彼は尻の位置を指した。科学的な計算は同じ結論を導き出した。トラックそのものが「調整されて」いる。すなわち表面はランナーのメカニカルな特性に密接に関連して、スプリングのように機能する。したがって、傷害が減少するため、よりハードなトレーニングが可能となる。また、ランナーのスピードも、ここではアメリカの他のトラックよりも、2 - 3% 速い。



1980年1月27日、ニューイングランドで公示された最初の4分以下マイル競争が、このトラックで行われた。マーク・ベルガーが3分57秒04で走った。1994年2月には、イーモン・クーリン Eamonn Coughlin が、屋内マスターズ・マイル記録を樹立し、3分58秒15のタイムを出した。トラックはテニスコート5面を囲んでいる。一方には窓があり、他方には1列の長い観覧者席がある。トラックの収容座席数は1,500である。この施設には、多くのロッカールームとノーチラス Nautilus ルームがあり、ブライト・ホッケーセンターにつながっている。

ブライト・ホッケーセンター

ソルジャーズ・フィールドの中央に、ブライト・ホッケーセンター Alexander H. Bright Hockey Center がある。パーマー・ディクソン・テニスコートの近くにあり、ハーヴァード・スタジアムの北西の角にあたる。建築は建築家協同株式会社が担当し、ターナー建設会社が請負い、1956年に完成した。建設費の一部として、ジョン・ワトソン John C. Watson (1922年卒, 文学士) が、兄のドナルド・ワトソン Donald C. Watson (1916年卒, 文学士) の記念に10万ドルを寄付している。リンクの名前は彼の名にちなんで名づけられたが、ワトソン・リンクの名称は同じ場所に立った屋外リンクのものに替わった。リンクは、コンクリート製基盤構造の上に乗っており、多くの異なった用途のためにアリーナを変えることができるようになっていく。施設規模は、202フィート×85フィートで、半径18フィートのコーナーを有している。観客からの視界は抜群であり、収容能力は、座席数が2,800人分あり、また600人の立見客が入れる余地がある。このセンターには、ハーヴァードのチームや訪問者、試合関係者のためのロッカー施設がある。センターはアイスホッケーに使用されるほか、レクリエーションとしてのスケートにも使われている。

なお、ブライト・ホッケーセンターでは、世界的に有名なフィギアスケート選手を呼び物とした、学生主催のチャリティ・イベントが毎年行われている。これはエリオット学寮 Eliot House フィギアスケートショー チャンピオンたちとのタベという名の催し物で、この益金は小児ガン研究のためのジミー基金 Jimmy Fund に寄付されている。このショーは、エリオット学寮に以前居住していた全米フィギアスケートチャンピオンのジョン・ミシャ・ペトケヴィッチ John Misha Petkevich (1973年卒, 文学士) によって創始されたものである。



左がブライトホッケーセンター，中央がディロン・フィールドハウス

ディロン・フィールドハウス

ソルジャーズ・フィールドの北側、屋内テニスコートとブリッグス・ケイジ Briggs Cage との間に、ディロン・フィールドハウス Dillon Field House がある。1931年に建設され、その後、1978年に120万ドル以上の費用をかけて改修された。設計を担当した建築家は、クーリッジ、シェプレイ、バルフィンチ、アボットである。改修工事を担当したのは、建築家協同株式会社に、ターナー建設会社が請け負った。

この建物の名は、1930年1月、火災で(大学のスポーツ器具全部と共に)全壊していた旧ロッカー・ビル Locker Building の改築を、気前よく申し出たクラレンス・ディロン (1905年卒, 文学士) にちなんだものである。建物が完成したとき、大学のスポーツプログラムに大いに寄与する、多くの隠された、しかし貴重な付属物があった。大学フットボール部のロッカー室には「茶」沸かし器があった。この場所では、「心理学的な」理由から、時おり茶が注がれたという。黒板も、戦略についてのよりよき研究のための革新として備え付けられた。最後に、しかし重要なものとして、靴修理店が倉庫内に置かれた。これにより選手たちの靴は速やかに修理されるようになった。

現在、このハウスには、身体療法・応急措置および医療用施設、コーチのオフィス、ロッカールームとシャワー、修理工具室、会議室、男子来学チーム室、ラウンジおよびフットボール、野球、男子陸上、サッカー、ラクロスの各部室がある。

ラヴィエッツ・パヴィリオン・アット・ブリッグス・アスレチック・センター

チャールズ川沿い、ディロン・フィールドハウスの隣（ビジネススクール側）に、ラヴィエッツ・パヴィリオン・アット・ブリッグス・アスレチック・センター Lavietes Pavilion at Briggs Athletic Center がある。このセンターは、野球や「フィールド」スポーツに使用される多目的施設である。1926年に13万5千ドルで建設され、1982年に200万ドルで改修された。最初の建築家はアンドリュース H.W.Andrews で、改修工事の建築家はグレラディン、ブルナー、コット株式会社 Gleradin, Bruner, Cott, Inc. であった。改修はコロニア建設会社 Columbia Construction Company によって完成された。



ブリッグス・センターの名は、レバロン・ラッセル・ブリッグス Lebaron Russell Briggs (1875年卒、文学士) にちなんで名づけられたものである。彼はハーヴァード・カレッジと教養学部 Faculty of Arts and Sciences の、また後にはラドクリフ・カレッジの学部長を務めた人物である。ブリッグスはまた、ハーヴァード体育スポーツ規則委員会の議長を17年間務めた。この施設は1995年に改築され、ラヴィエッツ・パヴィリオン・アット・ブリッグス・ケイジと名称を改めた。これは、レイモンド・ラヴィエッツ Raymond P. Lavietes (1936年卒、文学士) の気前のよい寄付に謝意を表したものである。

このセンターは約2,100人を収容でき、一卷のアストロターフ（人工芝の商標）をわずか30分で

持ち上げて床を覆うことのできる独自の水圧システムを備えている。この人工的なカーペットは、大学バスケットボールの試合や他のイベントのために使用される際の木の床を、野球やラクロスなど他種目スポーツがシーズンオフに使用する練習場所へと切り替えることができる。

パーマー・ディクソン屋内テニスコート

ディロン・フィールドハウスとブライト・ホッケーセンターの隣に、パーマー・ディクソン屋内テニスコート Palmer Dixon Indoor Tennis Courts がある。1964年に25万ドルを費やして建設された。建設費は、主としてパーマー・ディクソン W. Palmer Dixon が寄付したものである。担当した建築家は、シェプレイ、バルフィンチ、リチャードソン、アボットである。

ヘメンウェイ体育館にパーマー・ディクソン・ギャラリー（スカッシュ）を献納した後、元インカレ・スカッシュのチャンピオンで大学テニス選手でもあったディクソンは、スカッシュとテニスのコーチであるジョン・バーナビー John M. Barnaby (1932年卒、文学士) に、「我々は今や何か別のことをするよう考えなければならないだろう」と語った。1962年冬、ディクソンが「小さな」贈り物をするために呼ばれた際、ジャック・バーナビーは屋内テニスコートについて考えていた。彼はディクソンのギフトが、テニスコートの基金の手始めとなることを要請し、事実そのとおりになった。

131フィート×161フィートの大きさをもつ同コートには、ハードコート3面、男女双方のロッカールーム施設がある。もともとは太陽光を採り入れやすいように屋根はプラスチックにする予定であったが、現在のように木製の屋根となったのは、光がざらついてプレーがしにくかったためであろう。ディクソンの希望により、インカレチームにコートを使用する優先権があることになっているのだが、ハーヴァードの他の学生教職員にも利用が認められている。

ベレン・テニスコート・センター

ベレン・テニスコート・センター Beren Tennis Center は、パーマー・ディクソン・テニスコートの隣に位置している屋外テニスコートである。ウィリアム・プレスリー William Pressley らによって設計され、リッチ W.T. Rich により、1981年に29万ドルの費用で建設された。同センターは、座席数3,600人分の収容能力をもち、8つのプレキシ舗装コート有しており、中程度の速さをもたらす表面素材とみなされている。また、とくにセンターコートにおける風による影響を減少させるため、特殊な風除けスクリーンを設けていることも、このセンターの特徴である。この施設は、主として大学テニスチームの練習や試合に用いられているほか、地域住民も利用することができる。



プロジェクト・プール

ソルジャーズ・フィールドの北東、ブリッグス・ケイジの隣にプロジェクト・プール Blodgett Pool がある。北ハーヴァード通りとソルジャーズ・フィールド道路の角に、1977年に400万ドルを費やして建設された。ケンブリッジの建築家協同株式会社が設計し、ターナー建設会社とウィッテン社 Whitten Corporation が建造した。表面がレンガの形状をしたコンクリート製の建物である。プールの名は、最初の計画と工事に必要な費用を寄付したジョン・プロジェクト John W. Blodgett (1932年卒、文学士) にちなんだものである。それ以前にも、同氏は大学図書館に、プロジェクト・コート (ピュ・ジィ図書館に付加して) とスペイン内

戦関係書籍の大型コレクションを寄贈している。プールは、1978年2月4日に公式に大学へ献納された。その時のオープニングセレモニーには、体育スポーツ常任委員会委員長ジェームズ・ウィルソン James Q. Wilson, ボク総長 President Bok, プロジェクト氏の息子 John W. Blodgett Jr. の挨拶があった。この日プールの名は、ハーヴァード大学男子水泳チームのキャプテンであったフランシスコ・キャナルズ Francisco Canales によって命名され、彼が各レーンにシャンペンを撒き散らして祝った。最後に、1930年から1971年までのあいだ同大学水泳チームのコーチを務めたハル・ウレン Hal Ulen とビル・ブルックス Bill Brooks が、このプールで競う最初のチームを鼓舞する言葉を述べた。最初の対戦で、不敗のハーヴァード大学チームは、東部リーグの試合において輝かしい戦績を有するプリンストン大学チームと対決した。ハーヴァードは、辛くも決勝において勝ち、400ヤード自由形リレーで3分5秒29の学生新記録を樹立した。オリンピックのメダルを獲得した最初のハーヴァードの水泳選手ボビィ・ハケット Bobby Hackett (1981年卒、文学士) が、最終泳者として45秒5のスプリットタイムで泳ぎ、チームを勝利に導いた。



このプールは、全米中で最も優れた水泳用並びに飛び込み用プールとみなされており、男女水泳チームの練習、大学対校水泳選手権大会、学内のレクリエーションとしての水泳、および授業に使用されている。1980年のNCAA水泳・飛び込み選手権大会や1981年の全米AAU選手権大会でハー

ヴァードが当番校となった時にも使用された。

観客席は1,200人分あり、床には500人の参加者を収容できる。プールの長さは50メートル、幅25ヤードで、奥に深さ15フィートの飛び込み用プールがある。ここには、大学対校試合や水球で使われる深さ7フィートのロングコース8レーンと、ショートコース14レーン（南側に競技用8レーン、北側にレクリエーション用6レーン）がある。飛び込み用プールには、7.5mの飛び込みタワーと、高さ1mと3mの踏み切り板がそれぞれ2つある。このプールに満たされている75万ガロンの水は、1時間に2万7千ガロンの割合で入れ替わっている。水中に2つの窓があり、水泳および飛び込みの両方を見ることができる。コロラド・タイミング・システムは、この種のものうち全米で最も進歩したシステムの1つであり、8レーンのディスプレイと飛び込み用のスコアボードがある。タイムを記録するために、プールの端には自動計測用パッドが備えられている。ほかに、ロッカールーム、ラウンジ、コーチングスタッフのオフィス、学校の記録を表示する大きなボードがある。

ニウエル・ボートハウス

ディロン・フィールドハウスからストロウ通りを越えて、チャールズ川に面したところにニウエル・ボートハウス Newell Boathouses がある。このボートハウスは、男女大学チーム、新入生、学内クルーのための本拠地である。ニューヨーク市ハーヴァードクラブの寄付により、1900年に5万ドルをかけて造られたものである。建築家はピーボディ Peabody とスターン Stern であった。

ニューヨーク市ハーヴァードクラブの基金によって造られた元のハウスは1899年12月27日、建設中に火災に遭い倒壊した。同クラブはボートハウス再建のために、寛大にも改めて更なる基金を提供した。ここには、ロッカールーム、シャワー設備、ウェイトルーム、練習で漕ぐための2つの屋内タンク、および幾つかの「エルグ」（静止型ローイングマシーン）がある。このボートハウスは、マーシャル・ニウエル（1894年卒、文学士）の名に由来する。ニウエル氏は4年間大学フットボールで

プレーし、3年間大学クルーで漕いだ。アンダーソン橋近くのソルジャーズ・フィールドへのゲートもまた、彼にちなんだものである。

ウェルド・ボートハウス

チャールズ川に面し、アンダーソン橋とメモリアル通りの角に、ウェルド・ボートハウス Weld Boathouses がある。このボートハウスは、現在、ハーヴァードとラドクリフのシングルスカルとシェルを収める艇庫となっている。1890年に木造で建てられ、1907年に改築された。ウェルド G.W.Weld (1860年卒、文学士) が基金を提供し、ピーボディとスターンが建築を設計した。このボートハウスは、ウェルド・トラステーズによって所有されている。

このボートハウスは、現在、ラドクリフのクルー・チームの司令部である。ロッカールーム、ウェイト施設、ラウンジに加えて、シェルを修理するボートショップがある。

ソルジャーズ・フィールドには、以上のほか、マア体育センター Murr Athletic Center がある。ここには、室内テニスコート6面、スカッシュコート16面（約700人の観客を収容）、広いウェイトトレーニング室、大学スポーツ史の諸記録を保存展示しているホール the Harvard Hall of Sports History がある。

その他、バスケットボールコート、ウェイトルーム、体操室のあるヘメンウェイ体操場、8レーン400mの屋外トラックであるムカーディ・トラック McCurdy Track、ハーヴァード・チームのための艇庫であるセイリング・センター Sailing Center、ジョーダン・フィールドがある。



ジョーダン・フィールド

マーキン体育センター (MAC)

ホリヨーク通りの西側、ローウェル学寮の西側部分の反対側に、マーキン体育センター Malkin Athletic Center がある。軽い運動のほか、インカレ・レベルのスポーツと学内スポーツに利用されている。水泳、エアロビクス、ウェイトトレーニングに使用され、幾つかの大学チームが利用している。

同センターは1930年に100万ドル近くの費用をかけて建てられ、1985年に改修された。最初の建築家は、クーリッジ、シェプレイ、バルフィンチ、アボットである。改修の発起と基金は、大学資源委員会を含む15の委員会メンバーであったピーター・マーキン Peter L. Malkin (1955年卒、文学士) から出たものであった。MAC には、バスケットボールコート、レスリング室、水泳プール、フェンシング室、ノーチラス器具のあるウェイトルーム、さらにプールの上にダンスやエアロビクスその他のレクリエーション活動のためのガラス張りの中二階がある。そのほか、オフィスや倉庫とともに、ロッカー、シャワー、サウナ、マッサージ室がある。

もともとは、「水中の校友」や「水中の匿名氏」という名のもとに二つの寄付をした一人の寄贈者の寄付金で建設された屋内体育館であった。ヘメンウェイ体操場 Hemenwey Gymnasium での過密を軽減するため新しい体育施設を建てようとする募金の努力は、1万2千ドルに達した後で中止された。というのは、大学は屋内体育館よりも他の建物を必要としていると法人が考えたからであった。したがって、1930年3月、NCAA 選手権大会でハーヴァードがプールを献納した際、このとき初めて大学は競泳用に十分ふさわしいプールを持ったので、ハーヴァードからは一人も選手は参加しないとアナウンスすることに大学は困惑した。

シャド・ホール

ソルジャーズ・フィールドの東に位置するビジネススクールには、他の各部局に見られない立派なシャド・ホール Shad Hall がある。1階にホテルのロビーのような吹き抜け空間を有する、民間

のフィットネス・クラブのような雰囲気をもつ体育施設である。各種フィットネス機器が置かれている部屋 the Fitness Equipment Area(FEA)、レクリエーション・スポーツ用の施設、ロッカールームおよびカフェがあり、ビジネススクールの教職員、学生、卒業生等に開放されている。

フィットネス機器には、以下のものがある。心肺機能増強機器として、Precor EFX Crosstrainers, Star Trac Treadmills, Stairmasters, Schwinn Airdynes, Lifecycles, Nordic Tracks, Concept Rowers, Biocycles, Monark Bicycles, Cybex Bicycles, Recumbent Lifecycles, レジスタンス機器として Cybex と Nautilus, ウェイト器具として、3 - 90ポンドのダンベル、水平ベンチと傾斜ベンチ、スミス・プレスがある。

このホールで行われるスポーツ種目には、次のものがある。バスケットボール、テニス、バレーボール、ラケットボール、バトミントン、ウォーキング/ジョギング、サッカー、スカッシュ、屋内ゴルフ、卓球。3階に室内トラックがある。ロッカールームには、スチーム、サウナ、水流プールがあり、タオルサービスも利用可能である。



3つのエクササイズ・スタジオでは、エアロビクス、筋肉コンディショニング、キックボクシングなど様々なプログラムが、資格を持ったインス

トラクターによって教えられている。毎週、約30クラスあり、スケジュールは月ごとに多少の変更がある。

シャド・ホールについては、以下のウェブサイトが開かれているので、詳細はそちらで参照されたい。

www.hbs.edu/dept/operations/admin/fitness/.

ラドクリフ体育センター (QRAC)

ラドクリフ体育センター Radcliffe Quadrangle Recreational Athletic Center は、スカッシュ、ラケットボール、バスケットボール、バレーボールの各コートを用意した近代的な施設である。

1973年、学生、同窓生、学寮長およびラドクリフ学長マチ・ナ・ホーナー Matina S. Horner によって指名された他のスタッフからなる委員会が、クアドラングル寮に居住する学生のためにレクリエーションスポーツ施設が必要であると決議したことに始まる。センターの建物は、225万ドルを費やして、クアド寮の反対のガーデン通りに1979 - 80年度に建てられた。設計は、ボストンの建築家ホスキンス Hoskins、スコット Scott、テイラー Taylor らによってデザインされた。

この施設には、地表面および屋上のテニスコート、スカッシュコート、バスケットボール、テニス、バレーボールに使用される多目的体育館、ウェイト・ルーム、男女のロッカールームがある。二面のスカッシュコートは、ラケットボールコートとハンドボールコートへ変換することができる。これらのコートは、大学全体で唯一のラケットボールコートである。QRAC は、現在、あらゆる学部学生に開放されている。教養学部の大学院生は、午前中のみ利用可能である。

2. ハーヴァードにおける大学スポーツ

ハーヴァード大学は、全米中の他のどの大学よりも多くの大学対校競技大会への機会を提供している。トータルで41のチーム数を誇り、そのうち男子が20チーム、女子が21チームある。毎年、1,300人以上の男女が大学のスポーツクラブに所

属している。ハーヴァードのチームは、全米大学競技連合 NCAA の1部リーグ (the Division 1) で戦っている。また、3年生のチームも多い (男子10、女子9)。

ハーヴァード大学の学生スポーツ種目

野球 (男子)
バスケットボール (男女)
ボート【重量級/軽量級】 (男女)
クロスカントリー (男女)
フェンシング (男女)
フィールドホッケー (女子)
フットボール (男子)
ゴルフ (男女)
アイスホッケー (男女)
ラクロス (男女)
セイリング (男女)
スキー (男女)
サッカー (男女)
ソフトボール (女子)
スカッシュ (男女)
水泳 (男女)
テニス (男女)
トラック競技【屋外/屋内】 (男女)
バレーボール (男女)
水球 (男女)
レスリング (男子)

これら多くのチームが全米のシーズン後のチャンピオン・トーナメントで競り合い、全国タイトルを勝ち取るチームもわずかであった。個々には、全米レベルの地位に達して高い名声を得て、全国スポーツフェスティバル、NCAA 選手権大会、パンアメリカン大会、さらにはオリンピック大会、ユニヴァーシアード、世界選手権大会で活躍する選手もいた。

インカレ・レベルで競技することのできる男女学生はごく限られているので、それ以外に学内スポーツの広範なプログラムが存在する。これは二つのグループに分かれており、1年生のためのプログラムと、2年生以上の学寮競技 House

Athletics と呼ばれる上級生のためのプログラムがある。後者は、様々な学寮が他の寮と対抗戦を友好的に楽しむもので、その際あらゆるスポーツの結果は表にされ、年末に最高位にあった学寮は、垂涎的であるストラウス杯 Straus Cup を授与されることとなる。

このほか、ハーヴァードの多くのクラブスポーツの中には、様々な武術クラブ、テニスクラブ、フリスビークラブなどもある。柔道部や剣道部もある。これらのスポーツは、関係する学生によって運営されており、管理当局からは最小限の支援しかなく、財政的な後援は全く受けていない。

ハーヴァードの数多くの施設と資源を利用することによって、大学共同体のメンバーは、どのような技術レベルであれ、レクリエーション的なスポーツ活動もしくは競技志向のスポーツ活動のいずれにも参加することができるのである。体育学科 athletic department の掲げる「すべての人に運動競技を Athletics for All」という目標は、あきらかに達成されているのである。

ちなみに、ライシャワー日本研究所発行の「通信」(日英2ヶ国語のニュースレター)によれば、橋本龍太郎元総理大臣が平成11年秋にハーヴァードを訪問した際、剣道部の稽古に参加している。1999年10月12日、同大学を特別訪問した橋本元総理は、ケネディ・スクール Kennedy School の学部長 Dean ジョセフ・ナイ Joseph Nye 教授主催の昼食会に出席、その後、ニール・ルーデンシュタイン Neil Rudenstine 総長と懇談、記念品の交換をし、夕刻、サイエンスセンターで溢れんばかりの聴衆を前に「90年代の日本を理解する」と題した講演を行い、夜はチャールズホテルでの晩餐会に出席した。翌日、ライシャワー研究所において日本について学んでいる同大学の多数の学生・大学院生と昼食を共にし、日本語での非公式な質疑応答に臨んだ後、剣道5段の元首相は、午後、姫野純二氏が指導しているハーヴァード・ラドクリフ剣道クラブの稽古に参加した。

平成12年9月の新聞報道によれば、慶大剣道部元主将で剣道7段の姫野氏は、竹刀も防具も足り

ない、道場もなく指導者もいない同大学剣道部を立て直し、全米で約20ある大学剣道部のトップレベルに育てた実績を持つ。4年前、出身の慶大剣道部OBらを介して指導を依頼され、東京海上火災保険西東京支店次長であった氏は、営業の仕事の続けながら休暇を使って米国出張指導を始め、また学生を日本に呼んで慶大剣道部の夏合宿でも教えた。その後、学生らが大学にかけあった結果、2年前にハーヴァード大学から客員研究員と剣道部監督として招かれ、会社から「出向」を認められた。氏は、昨年1月マサチューセッツ工科大学 MIT でも剣道部を創部している。ハーヴァード大学の剣道部員は36人に増え、2000年4月、11大学が参加した「昇竜杯」で準優勝した。この大会の個人戦優勝者には「姫野杯」が贈られる。

なお、ハーヴァード大学の学生スポーツに関する歴史書として、今世紀の前半と後半、それぞれ以下の二著が編纂され、出版されている。両者共に写真資料を掲載している。

THE H BOOK OF HARVARD ATHLETICS
1852-1922, EDITED BY JHON A. BLAUCHARD,
PUBLISHED BY THE HARVARD VARSITY
CLUB, 1923

A PICTORIAL HISTORY OF HARVARD ATHLETICS,
1852-1985, CRIMSON IN TRIUMPH,
JOE BERTAGNA, A Terry Catchpole Book, THE
STEPHEN GREENE PRESS, Lexington, Massachusetts,
1986

前者は、戦績、スコア等のデータを含むが、刊行が古いため、通常の書店では入手することができない。ハーヴァード大学のピュージ図書館 Pusey Library 内にあるアルヒーフ等で見ることができる。後者は、今日、ハーヴァード大学の生協書籍部等で容易に手に入れることができる。

注 記

本文中、Faculty of Arts and Sciences を、ある翻訳書の訳例にならい、一応「教養学部」と訳しておいたが、実は、この組織名は翻訳書の間で訳者によって一定していない。そもそも古代ギリシャ以来のリベラルアーツの伝統を受け継ぐ組織名称であり、直訳的には「学芸学部」ないし「学芸科学部」、あるいは「文理学部」でもよいであろう。

また、A.B. すなわち Bachelor of Arts については、英和辞典にしたがって「文学士」と訳しておいたが、Faculty of Arts and Sciences の提供する履修科目を修得して卒業した、日本で言ういわゆる学部卒業者であり、日本の文学部卒業者とは内実を異にする。「教養学士」もしくは「学芸学士」として訳してもよいのであろうが、一応、辞書訳語に従っておいた。

筆された冊子（定価10ドル）である。ホリヨークセンター Holyoke Center 内のハーヴァード大学インフォメーションセンターで入手できる。

参 考 文 献

- 1) GUIDBOOK TO HARVARD UNIVERSITY, Celebrating Crimson Key Society' s 50th Year, 1998, President and Fellows of Harvard College
- 2) HARVARD, AN INTRODUCTION TO HARVARD COLLEGE, Volume XXI, number 7, August 20, 2000, HARVARD COLLEGE・ADMISSIONS AND FINANCIAL AID
- 3) Shad Hall Policies and Guidelines 1999-2000
- 4) Shad Hall Fitness Equipment Area, Services, Programs, Guidelines, Health Development
- 5) EDWIN O. REISCHAUER INSTITUTE OF JAPANESE STUDIES, TSUSHIN, SPRING 2000, Vol.6 No.1 (ハーヴァード大学ライシャワー日本研究所「通信」春2000), P. 9
- 6) 朝日新聞, 2000年9月7日, 第2面「ひと」欄, 「ハーバード大剣道部を再建した 姫野純二さん」

本稿は、主として文献 1) の Chapter XI Student Life at Harvard-Radcliffe, Section 2 : Athletics at Harvard (同書201 - 210頁) に依拠して執筆した。同書は、大学紹介を主たる活動目的とするサークルの創部50周年を記念して編集され、関係各部局スタッフの協力の下に執

メインキャンパスおよびソルジャーズフィールド周辺地図



AN INTRODUCTION TO HARVARD COLLEGE, p.54より